

笹川保健財団 研究助成

助成番号：2023-05

2024年 3月 7日

公益財団法人 笹川保健財団

会長 喜多悦子 殿

2023年度笹川保健財団研究助成

研究報告書

標記について、下記の通り研究報告書を添付し提出いたします。

記

研究課題

特定行為研修修了看護師を含む多職種連携に関する研究；タイムリーなケア提供の実現に向けて

所属機関・職名 千葉大学大学院看護学研究院・助教

氏名 佐伯昌俊

1. 研究の目的

特定行為研修を修了した看護師（研修修了看護師）が急激に増加している。研修修了看護師は医師の包括的指示である手順書により、自らの判断に基づいて一定の医行為を実施できる。そのため、医師不在時でも研修修了看護師の臨床推論によってタイムリーなケア提供が可能となる。申請者らは過去の研究で、研修修了看護師が医師との協働的パートナーシップを構築しながら組織で役割拡大していることを明らかにした。この知見から、研修修了看護師を含めた多職種連携の推進が診療ケアの質向上への鍵を握ると考えた。本研究の目的は、研修修了看護師を含む多職種連携の実際とその関連要因を明らかにすることである。

本研究は多職種連携の実際とその関連要因を明らかにするためインタビュー調査を行う。インタビュー調査は、機縁法に基づき研修修了看護師に研究依頼する。さらにスノーボールサンプリング法によって研修修了看護師から多職種連携を実践している職種を紹介してもらい研究依頼する。多職種には医師、スタッフ看護師、介護士、薬剤師、栄養士、放射線技師等が想定される。研究協力者は約 20 名を想定している。

2. 研究の内容・実施経過

2023 年 4 月-6 月は、共同研究者や学内の多職種連携の教育研究に携わってきた研究者らとディスカッションの機会をもち、研究計画を精練した。2023 年 7 月には、カナダのモントリオールで開催された 29th International Council of Nurses Congress に参加し、ICN chief nurse の Mechelle Acorn 氏や Advanced Practice Nurse (APN) Network の chair である Daniela Lehwaldt 氏らと高度実践看護師の活動と高度実践看護師の現場への実装に関する意見交換、ディスカッションを行った。帰国後、研究計画を修正したうえで 2023 年 9 月に千葉大学大学院看護学研究院の倫理審査委員会に申請した。2023 年 10 月に倫理審査の承認が得られた。

インタビューの開始に先立ち研修修了看護師の配置活用内容を検討し、インタビューガイドを修正した。2024 年 1 月よりインタビュー調査のリクルートを行い、2 月までに 14 名のインタビューを終了した。収集したインタビューデータは逐語録を作成し、研修修了看護師の活動および多職種連携の実践に焦点を当て、質的内容分析 (Mayring, 2000) を行った。なお、インタビューデータの収集が予定していた時期よりも遅くなったため、全データの分析を完了していない。本報告書では分析の途中経過を報告する。

3. 研究の成果

本研究では、研修修了看護師 8 名、と研修修了看護師から紹介を受けた多職種 6 名がインタビューに参加した。インタビュー参加者とそれぞれの活動を表 1、表 2 に示す。

研修修了看護師の活動

研修修了看護師は、「医師の具体的指示下で特定行為を実施」していた。医師の包括的指示である手順書の運用については、既にひな型が作られ電子カルテからも閲覧できる状態にありながらも、研修修了看護が一行為ずつ手順書の適応を確認することは現実的に課題があることが語られた。また、研修修了看護師は入院患者の状態や検査結果を確認して「医師に治療提案」や「処方への代行入力」を行っていた。さらに研修修了看護師は PICC (Peripherally Inserted Central venous Catheter) チームを形成して院内で横断的に活動したり、RRT (Rapid Response Team) に所属して院内入院患者の異常の早期発見・早期対応の役割を担っていた。

研修修了看護師は「診療科カンファレンスに参加」し、医師と診療方針のディスカッションに参加したり、看護

表 1. 研修修了看護師のインタビュー参加者

ID	看護師 経験年数	特定行為研修 修了後の年数	活動の概要
1	20年	8年	<ul style="list-style-type: none"> ・主な活動場所は回復期リハビリテーション病棟、院内横断的に活動することも可能 ・回復期リハビリテーション病棟で内科医師が担当している患者の管理
2	30年	3年	<ul style="list-style-type: none"> ・主な活動場所は外来、日によって担当診療科が異なる ・認知症看護認定看護師であり、抗認知症薬や抗精神病薬の調整
3	17年	5年	<ul style="list-style-type: none"> ・主な活動場所は手術室、管理業務・手術室看護師業務・麻酔業務を担っている ・特定行為研修後に麻酔科で臨床研修を行っており、麻酔業務を担う
4	19年	8年	<ul style="list-style-type: none"> ・主な活動場所は脳外科病棟、入院患者の内科管理や看護師からのファーストコールへの対応 ・RRTで院内を横断的に活動することもある。医師から個別に依頼があった場合、PICCをベッドサイドで挿入
5	9年	4年	<ul style="list-style-type: none"> ・総合診療センター診療部で内科チームで入院患者のマネジメントを主に行う ・RRTやPICCチームで院内を横断的に活動することもある
6	28年	4年	<ul style="list-style-type: none"> ・皮膚・排泄ケア認定看護師、ストーマ外来、褥瘡ケアに携わっている ・院内の特定行為研修の運営も担う
7	16年	3年	<ul style="list-style-type: none"> ・救命外来の経験後に特定行為研修 ・現在は主に特定行為研修の運営を担う
8	35年	5年	<ul style="list-style-type: none"> ・皮膚・排泄ケア認定看護師、看護管理者 ・院内を横断的に活動

の視点から考えを共有していた。また、診療科カンファレンスに参加することで「患者の治療方針を共有」することができ医師不在時の病棟の患者管理を担っていた。研修修了看護師は病棟で「スタッフ看護師からの相談」や「理学療法士・作業療法士・言語聴覚士からの情報共有・相談」を受けていた。研修修了看護師への相談は、“医師に電話するほどでもないが、気になること”、つまり明らかに高い緊急度ではないが状態悪化の可能性のある内容が含まれていた。

研修修了看護師はスタッフ看護師とともにケアに入ったり、必要に応じて理学療法士・作業療法士・言語聴覚士と時間を合わせて一緒にリハビリを行っていた。また、一緒に実施しない場合でも事前にリハビリ時の注意点を理学療法士・作業療法士・言語聴覚士と共有していた。研修修了看護師は処方への代行入力や治療内容に関するカルテを記載することから「薬剤師からの情報共有・確認」として、薬剤師から患者の内服理由の確認やポリファーマシーへの対応の必要性が共有されていた。

研修修了看護師は、特定行為研修で獲得した知識とスキルを活用することで「患者の緊急度を判断」していた。また、患者の治療方針を医師と共有している研修修了看護師は、スタッフ看護師からの相談や理学療法士・作業療法士・言語聴覚士からの情報共有を基に「タイムリーな臨床判断と対応」を行っていた。例えば、急性期の患者の状態回復に応じて治療方針の範囲内で食事形態をすぐに変更することで、早期に嚥下評価が

可能となり、入院期間の短縮につながる経験をしていた。また、発熱のある患者に対しては、必要な検査と抗生剤の選定を行い、医師に提案していた。これらのように治療方針の範囲内で医師の確認を待たずにタイムリーに対応することや、研修修了看護師が情報をまとめてアセスメントを伝えることで医師が迅速に意思決定を行うことにつながり、患者の回復促進や異常の早期発見・早期治療につながっていた。

研修修了看護師は自身の書いたカルテを多職種が見て理解できるように平易な用語を使用するように配慮しており「多職種を繋ぐ」役割を担っていた。ただし、研修修了看護師は、意識的に多職種を繋ぐことを目的として活動しておらず、患者の目標に沿って必要な知識や情報を各専門職の視点からより良い方策を検討し、結

表 2. 研修修了看護師のインタビュー参加者

ID	職種 (連携している修了看護師 ID)	研修修了看護師との活動
9	薬剤師 (ID: 2)	病棟担当の薬剤師として勤務しており、薬剤の服用方法の提案や眠剤の調整、腎機能など患者の状態に応じた薬剤の調整を研修修了看護師と連携しながら行っている。また、患者ごとの薬剤の内服理由を共有する。
10	医師 (ID: 2)	総合診療科に所属している。ポリファーマシーや薬剤の相互作用について情報共有を行っている。外来で気になる患者について、早期に研修修了看護師に情報提供することで、地域資源につなげることが可能となる。医師の働き方改革という点でタスク/シフト・シェアを行っている。
11	作業療法士 (ID: 4)	急性期で呼吸器がついていたり、血圧の安定しない高い患者をリハビリで動かす際に、研修修了看護師と一緒にしてもらうことで安全にリハビリを行うことができる。患者の状態変化についてスタッフ看護師に相談するよりも研修修了看護師に相談した方がその場で判断して意見交換できるので、活動しやすい。
12	理学療法士 (ID: 5)	HCUとICUでのリハビリテーションを主に行っており、早期離床を行っている。研修修了看護師とは離床時の呼吸器設定や離床時の注意点について確認している。循環動態の変化する患者を対象にしているため、スタッフ看護師だと心もとないと感じることがあり、研修修了看護師に相談する。離床時の疼痛に対して鎮痛薬や鎮静薬の調整を依頼する。
13	理学療法士 (ID: 8)	院内の褥瘡委員会に所属している。褥瘡患者のリハビリについて、理学療法士として「ここまでやりたい」という意見を研修修了看護師に相談することで、可能な範囲でのリハビリを実施することができる。また、創傷のある患者の活動時の注意点について助言を受ける。
14	医師 (ID: 8)	腎臓内科に所属している。医師不足の施設であるが、研修修了看護師がいることで皮膚・創傷ケアに関して、高度な医療を継続的に提供することができる。今後は、特定行為である栄養水分の管理についても活躍を期待している。

果として多職種を繋いでいた。

多職種からみた研修修了看護師との連携

研修修了看護師と連携している多職種からは、研修修了看護師への信頼の高さが語られた。作業療法士や理学療法士からは「研修修了看護師に相談した内容についてその場で判断してもらえる」という語りから、研修修了看護師が知識とスキルを持ち、医師と治療方針を共有しているからこそタイムリーな対応につながっていると考えられる。また、医師からはタスク・シフト/シェアへの期待が語られ、研修修了看護師がいることで提供する医療の質を確保していることが語られた。一方で、複数の協力者からは「その人（今の研修修了看護師）が抜けたらどうなるんだろう」というように研修修了看護師の活動の継続性に関する懸念も語られた。

4. 今後の課題

研修修了看護師数は年々増加しており、今後もさらなる増加が予測される。一方で、研修を修了したものの十分な活動が行えていない研修修了看護師がいることも報告されている。今回のインタビュー調査の研究協力者は、いずれも研修修了看護師として活動しており、多職種が研修修了看護師の活動を理解して連携実践を展開している者であったため、結果の一般化には注意が必要である。今後は、このような連携実践を可能にする関連要因を探索することやスタッフ看護師と研修修了看護師の連携実践を明らかにすることが必要であると考える。

また、本研究はインタビュー調査の結果をもとに多職種連携における概念間の関連を量的に検証する計画であったが、スケジュールの都合でインタビュー調査にとどまった。今後は、この研究結果を精錬し、量的な検証につなげる。

5. 研究の成果等の公表予定（学会、雑誌）

本研究の成果は、第 28 回日本看護管理学会学術集会で発表予定であるとともに、論文化して国際誌に投稿予定である。

引用・参考文献

Mayring Ph. (2000) Qualitative Content Analysis [28 paragraphs], Forum Qualitative Sozialforschung/ Forum: Qualitative Social Research, 1(2), Art.20, (<http://nbn-resolving.de/urn:nbn:de:0114-fqs0002204>, 2011.11.10)